

経営比較分析表（令和4年度決算）

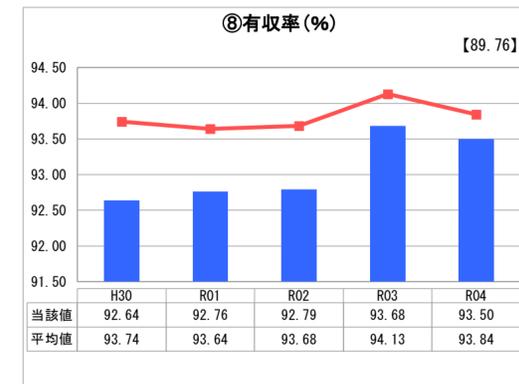
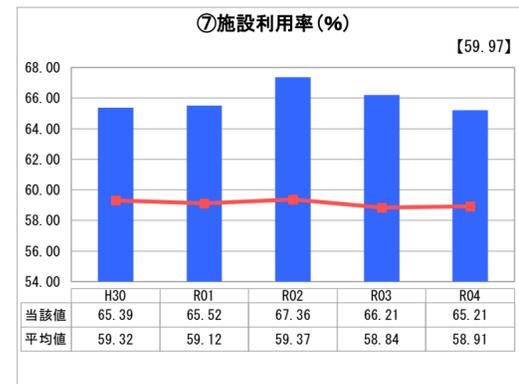
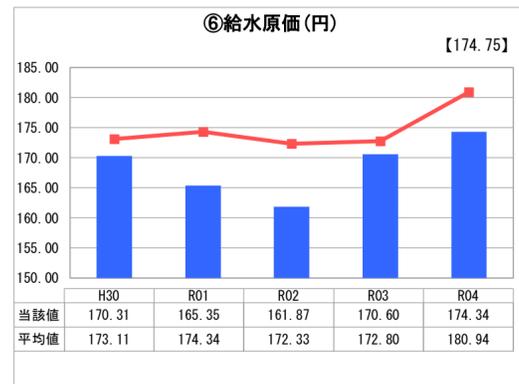
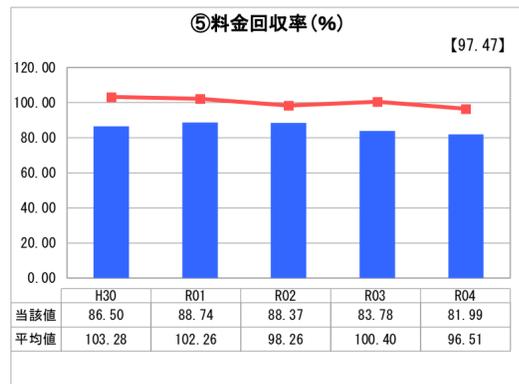
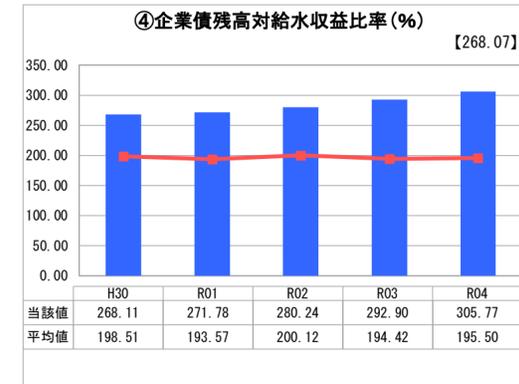
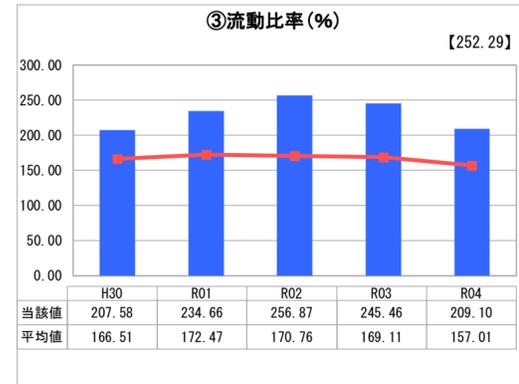
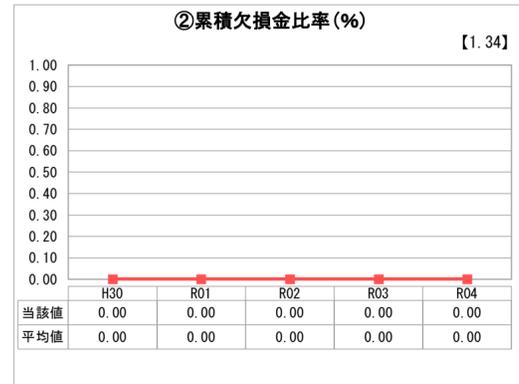
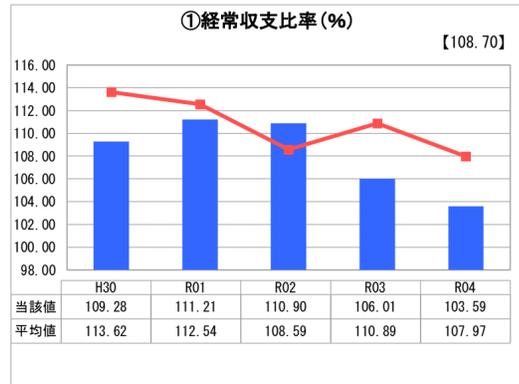
神奈川県 川崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.03	100.00	2,321	

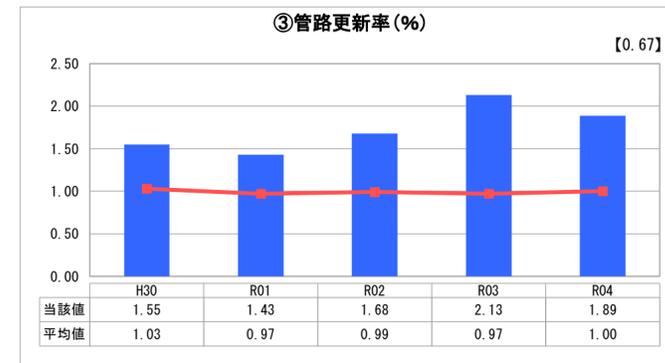
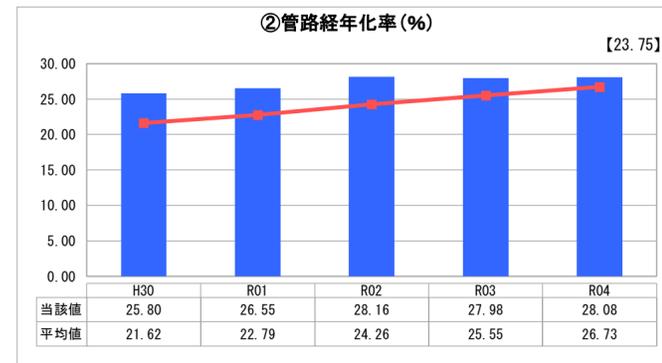
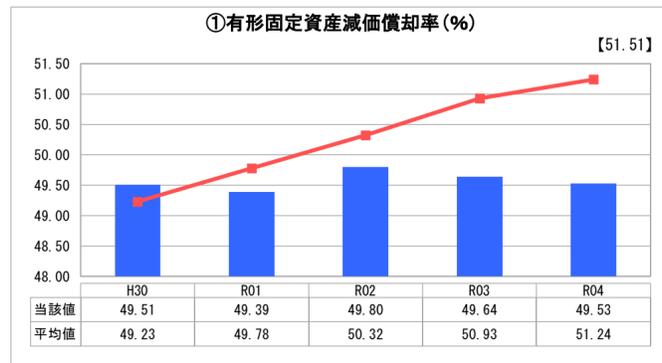
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,524,026	142.96	10,660.51
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,541,612	144.35	10,679.68

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○①経常収支比率は水需要の減少に伴う給水収益の減収、原油価格・物価高騰等による費用の増加により、減少したものの、100%を上回っており、②累積欠損金は計上されていないため、経営の健全性は維持しています。また、③流動比率は、100%を上回っており、短期的な資金繰りには問題ないものと考えます。しかし、企業債残高が増加しており、今後の老朽化対策等により、更なる更新需要の増加が見込まれることから、長期的な経営状況を考慮し、④企業債残高対給水収益比率が増加しすぎないように留意しながら、計画的に更新する必要があります。

○⑥給水原価は、類似団体平均を下回って推移していますが、低廉な料金水準（供給単価）により⑤料金回収率は、100%を下回っています。しかし、付帯収入で給水に係る費用を賄うことにより、健全経営を維持しています。

○⑦施設利用率は、類似団体平均を上回って推移しており、施設が効率的かつ適正な規模で運用されています。

○⑧有収率は、類似団体平均を下回って推移しているものの、老朽給水管対策の着実な取組により、改善傾向にあります。

2. 老朽化の状況について

○①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均が上昇傾向にある中で、本市は着実に更新を進めていること、横ばいで推移しています。③管路更新率は、類似団体平均を上回って推移しており、②管路経年化率は、令和2年度以降、横ばいで推移しています。

全体総括

○今後は、課題である老朽管の更新等に伴い、更なる更新需要の増加が見込まれるため、アセットマネジメント手法等を活用し、適正な投資規模を検討するとともに、効率的かつ計画的な更新が必要です。

○将来の水需要動向を把握するとともに、将来にわたっても安定給水を確保できるよう、更なる経営基盤の強化に向けた取組や検討を進めます。